

一般外来研修(必修科目)

一般外来研修
プログラム指導者 福井 基成

1. 目的

一般外来研修において、頻度の高い症候や病態を有する初診及び慢性疾患患者に対して、適切な臨床推論プロセスを経て解決に導く力を養う。研修終了時には、コンサルテーションや医療連携が可能な状況下において単独で診療を行えることを目的とする。

2. 研修計画

研修期間は1ヶ月とし、一般外来研修担当科:循環器内科/呼吸器内科/消化器内科/脳神経内科(合計24週)、地域医療(4週)を研修中に並行研修として、20単位を研修する。

*午前・午後など半日で0.5単位換算とする。0.5単位の初診患者数は1～5人程度。

- 指導医・上級医と共に、外来にて初診患者の診察を実施し、経過に応じて再診を経験する。
- 上級医・指導医の指導のもと、薬物療法、輸液療法の管理ができる。
- 研修医は各自で経験した症候・疾病・病態について日々記録を行い、不足する症例については適宜指導医に報告する。
- 上級医・指導医の指導のもと、臨床的疑問に対して治療診断指針、ガイドライン、インターネットでの文献・情報収集(PubMed、UpToDate 検索など)を用いて最新の情報を収集する。
- 大阪市内の診療所、大阪市北区医師会訪問看護ステーションまたは、新潟県内の医療機関および離島の診療所での地域医療研修時にも一般外来研修を行う。
- 新興感染症大流行期において通常の外来研修が困難な場合には、発熱外来などでの研修を当てざるを得ないことがある。

3. 研修目標

- 外来診療において経験する頻度の高い症候及び疾病・病態について、病歴、身体所見、検査所見から適切な鑑別診断を挙げ、病態に応じた初期対応を実践できる。
- 外来診療において経験する生活習慣病を含めた慢性疾患(高血圧・脂質異常症・糖尿病など)に対して、継続診療を経験し標準的治療を実践できる。
- 診療録を POS (Problem Oriented System) に従って記載し管理できる。
- 問診・身体所見を通して、患者、その支援者と良好なコミュニケーション・信頼関係の構築をはかることができる。
- 必要に応じて、専門外来へのコンサルテーションや開業医への紹介を計画する。
- 診断・治療に必要な基本的検査および手技(IV に記載)を実施できる。
- 多職種によるチーム医療の重要性を理解できる。
- 高額医療、指定難病などに関わる医療費助成制度を理解できる。

4.評価方法

指導医システムにより、PG-EPOC システムの評価項目などに従って評価する。

- 研修の達成度や研修意欲。
- 患者/家族や医療スタッフとのコミュニケーション能力。
- 医師としての問題解決能力や責任感。